

スジグロボタルの交尾

足立義弘

筆者は、1987年7月11日、兵庫県美方郡村岡町大笹（鉢北高原）の先大池で、スジグロボタル *Pristolycus sagulatus adachii* の交尾を観察した。観察したのは、湿地をとり囲む林の林縁部で、オタカラコウが多く生えており、この葉上で交尾は行われた。最初5個体が集まり、オタカラコウの葉上を歩き回っていたが、目を離れた一瞬のすきに交尾行動が始まった。つまり♀の上に♂が乗り、さらにその上にもう1頭の♂が乗って、何とか割り込もうとしている状態であった。天候は曇り後雨で、終日風が強かった。スジグロボタルの交尾の観察は稀と思われるので、その経過を報告する。

- 16:30 ♀は2頭の♂を乗せたまま、オタカラコウの葉上を歩き回っている。
- 16:45 一番上の♂が一度離れるが、3秒ほどして再度ペアの上に乗る。同時に♀は静止する。割り込んだ♂は交尾器を伸ばし交尾を試みる。この時点では、すでに下のペアは交尾中と思われた（写真1）。
- 16:52 一番上の割り込み♂が再度ペアから離れ、近くを歩き回り、10分ほどして他の葉へ移る。
- 17:12 ♀は再度歩き出す。♀は触角を絶えず動かしながら歩くが、上に乗っている♂は終始動かず、触角を“V”字状に立てている。
- 17:20 ♀は歩き続ける。周りに他の個体がみられなくなる。
- 17:49 小雨が降り出す。♀はまだ歩き回る。
- 17:50 葉柄を下へ進み、地表から高さ30cmくらいの位置で静止する（オタカラコウの高さは約60cm）。
- 18:10 静止したまま。
- 18:50 静止場所が雨のしずくの通り路となり、隣の葉柄へ移り静止する（写真2）。

ここで、雨が強くなり、夕暮れが迫り暗くなってきたため、観察を中止したが、ペアは交尾を続けたままであった。



写真 1

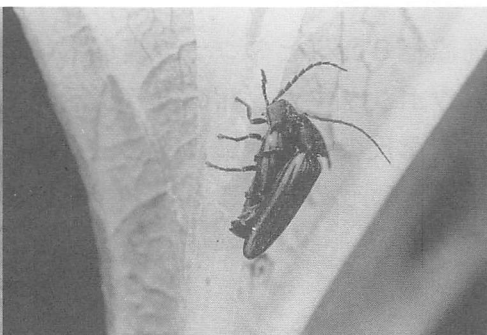


写真 2

スジグロボタルの♂♀のコミュニケーションは、オバボタルと同様であるらしく、性フェロモンによるケミカル・コミュニケーションが成立している可能性が示唆されている（大場，1986）。今回観察された交尾前の集合行動は、この可能性を裏づけるものと思われる。今後、産卵場所や幼虫の食性などにも興味がもたれる。

参考文献

大場信義（1986）ホタルのコミュニケーション。東海大学出版会。

温泉町でオオムツボシタマムシを採集

佐藤邦夫

筆者は、兵庫県では珍しいオオムツボシタマムシ *Crysobothris ohbayashii* を採集しているので、報告する。

1 ex., 1981-VII-13, 美方郡温泉町竹田

